

海域ごとに異なる来遊数の変動要因を解明

資源回復に向けた手がかりに！

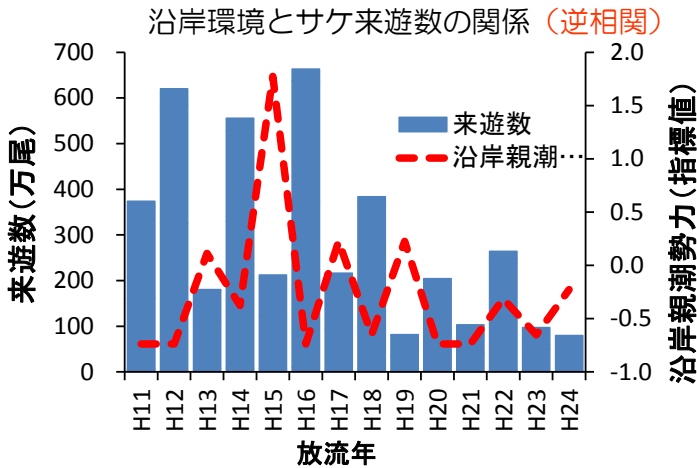


背景

- 近年の北海道へのサケマスの子来遊数には、海域間で大きな格差がみられ、いくつかの地区では資源の低迷が続いている。
- 資源が低迷する地区では、資源変動要因の解明と効果的な資源回復方策の提示が求められている。

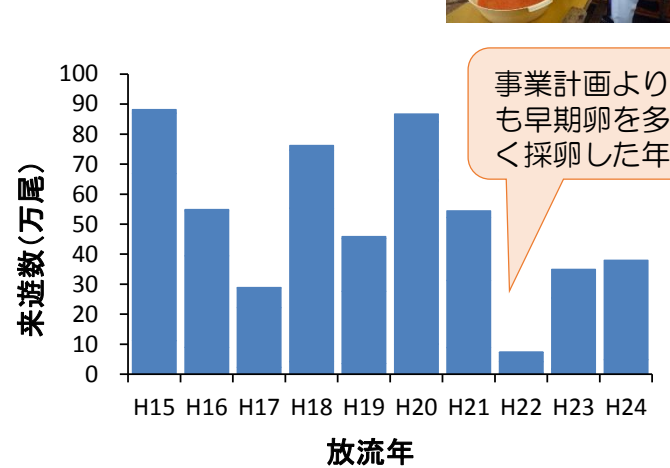
成果

1 えりも以東東部海域 (釧路・根室管内)



- 1年おきに豊漁・不漁年級の繰り返し
- 春季に沿岸を流れる冷たい海流（沿岸親潮）の勢力と来遊数の変動が連動（H11～19年級）

2 日本海南部海域 (後志・檜山管内)



- 早期卵への偏りは回帰率低下
- 望ましい採卵時期の提案（9～10月にかけて幅広い時期に採卵をすることが重要）

3 オホーツク海域 (網走・宗谷管内)

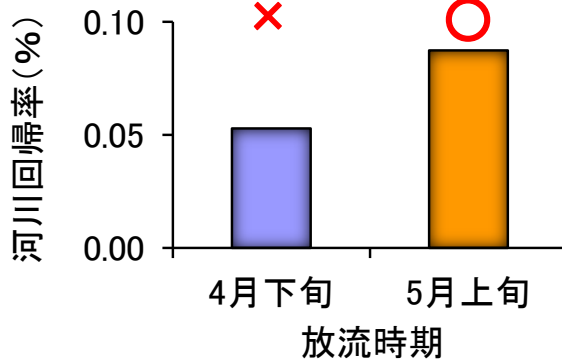


カラフトマス親魚



カラフトマス稚魚

標識放流によるサケマスの回帰率 (網走川)



- カラフトマスでは早期（4月下旬）の放流では低回帰になる。

期待される効果

- 沿岸環境、採卵時期、放流時期等、海域や魚種により異なるサケマスの資源低迷原因を解明しました。
- 魚種ごと、海域ごとに回帰率の向上に向けた放流事業の改善に活用されます。